

# 平成22年度 【 学園研究費助成金<B> 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ トミダ カズコ  
氏名 富田 和子

研究期間 平成22年度

研究課題名 狂俳を中心とした近世後期俳諧資料の収集と整理

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	富田 和子	生活科学部	助教
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等

本研究は、近世以降現在までの東海地方の俳諧資料を収集し整理して、その特徴を明らかにすることを目的とする。特に、俳諧の盛んな地域である尾張・三河・美濃の資料を扱う。早くから、俳諧史を考える際、蕉風俳諧に代表される芸術的な方向と、前句付俳諧に代表される遊戯的な方向があることを、俳諧の実態として重層的にとらえ考察すべきことを指摘されながらも、遊戯的な雑俳を含む研究は少ない。いまだ芭蕉及びその門人に片寄る傾向がある上、地方の俳人・俳壇に関する研究は手薄である。狂俳関係のものなどは、散逸してしまうことが多い。それを防ぐためにも、急いで調査・研究する必要がある。

## 2. 研究方法等

地方に散見する個人蔵を含む埋もれた俳諧資料の中で、近世後期の狂俳資料を中心に収集・整理する。そこから見えてくる愛好者の短詩型文芸に対する取り組みから、当時の愛好者の「俳諧」意識や諸問題について考察する。具体的には、次の手順でおこなう。

1. 購入できる資料は購入する。
2. 個人蔵の資料を借用し、デジタルカメラやスキャナをつかって、デジタルデータを作成し、その特徴を検討する。
3. 地方の図書館・博物館所蔵の埋もれた俳書や引札類の収集と整理を行う。
4. 資料を収集・整理することから見えてくる問題点を考察する。

### 3. 研究成果の概要

雑俳化といえば、雑俳の特徴をもつようになることである。この雑俳には、「雑」という文字のイメージの悪さや、ハメ句の横行、バレ句集の刊行、雑俳の一つである三笠付を博奕として禁令発布といった歴史的な一面が特徴として押し付けられ、イメージとしてつきまとっているように感じられる。そのため、雑俳化というとき、俳諧から生まれた「第二の俳諧文芸」という意味合いよりも、「大衆化」と同一視され、更には「ハメ句・バレ句・賭博」化すると誤解されることが多いのではないかと懸念される。雑俳的意識も同様である。

そこで、「雑俳化」とは、俳諧から分化し、俳諧式目などの制約にとらわれない新たな楽しみとして、付合それ自体を楽しみ、二句の間の付味や趣向を誇る独立した文芸になることであり、「雑俳的意識」とは、二句の間の付味や趣向を誇るところに最大の関心事がある文芸意識であることを確認した。そして「雑俳化」は、企業化した会所が仲立ちとなって、俳諧を合理的・民主的に行おうとしたために勢いついたものであると考えられる。繰り返すが、付合を楽しみ、趣向を他に誇るという面こそ、「雑俳化」の特徴である。

雅と俗の間の往還が俳諧の歴史であることは周知のことである。第二の俳諧文芸である雑俳も、それぞれの形式が整うにつれて、雅に向かうし、俗にも向かう。歴史的に褒美や高価な景物を狙うという事象がおこったからといって、それが雑俳化や雑俳意識であると考えるのは、おかしいのである。新しい形式の俳諧文芸を生み出していった雑俳の変遷をみると、人間生活の機微と矛盾をとらえようとした「雑俳」には、都側の俳諧と同様に「改革」の言葉がふさわしいと感じる。

### 4. キーワード

① 狂俳	② 雑俳	③ 俳諧	④
⑤	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望**（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

公開した研究成果

富田和子「雑俳化・雑俳的意識について」（「椋山女学園大学研究論集」42号 人文科学編 平成23年3月）